

動物由来感染症を知っていますか？

動物由来感染症とは

「動物由来感染症」とは動物から人に感染する病気の総称です。人と動物に共通する感染症（Zoonosis：ズーノーシス）は、日本では、「人獣共通感染症」や「人と動物の共通感染症」ともいわれますが、厚生労働省は人の健康問題という視点に立って、「動物由来感染症」という言葉を使っています。世界保健機関（WHO）では、ズーノーシスを「脊椎動物と人の間で自然に移行するすべての病気または感染（動物等では病気にならない場合もある）」と定義しています。なお、「動物由来感染症」には、人も動物も重症になるもの、動物は無症状で人が重症になるもの等病原体によって様々なものがあります。

動物由来感染症が問題となる背景

その背景として人間社会の変化と人間の行動の多様化があげられています。例えば、交通手段のめざましい発展による膨大な人と物の移動、人口の都市集中化、絶え間ない土地開発と自然環境の変化、先進国では高齢者の増加等の影響や、野生動物のペット化、動物工場のような形態での動物性食品の生産体制への著しい変化等があげられます。そのような中で今まで未知であった感染症が明らかになったり、忘れられていた感染症がその勢いを取り戻しています。人間は多くの生物と共存している事実を忘れないで、幅広い視野に立って感染症の対策を立てていく必要があります。



世界では、たくさんの新しい感染症が見つかっています

世界では従来知られていなかったたくさんの新しい感染症（新興感染症）が今も次々と見つかっています。そしてその多くが動物由来感染症であることもわかってきました。それらの中には感染力が強く重症化する傾向のあるものや、有効な治療法がまだ開発されていないものもあります（SARS、エボラ出血熱、マールブルグ病、ハンタウイルス肺症候群等）。これらの新興感染症が見つかる以前に動物由来感染症は、世界保健機関（WHO）で把握されているだけでも150種類以上ありました。また、最近問題になっている生物テロ兵器として、炭疽菌、ペスト菌、ウイルス性出血熱のウイルス、野兔病菌等の病原体があげられていますが、これらは全て動物由来感染症の病原体です。

日本と世界の動物由来感染症

世界中で数多くある動物由来感染症のすべてが日本に存在するわけではありません。日本には寄生虫による疾病を入れても数十種類程度と思われます。このように、日本では動物由来感染症は比較的少ないのですが、世界では多くの動物由来感染症が発生していますので、海外でむやみに飼い主不詳の動物や野生動物に触れることは止めましょう。

日本に動物由来感染症が比較的少ない理由

● 地理的要因（温帯で島国）

日本は全体として温帯に位置しているため、特に熱帯・亜熱帯地域に多い動物由来感染症がほとんどありません。また島国であるため周囲の国々からの感染源となる動物の侵入が限られています。これらの地理的要因のため野生動物由来の感染症やベクター（ダニ類、蚊等）媒介性の動物由来感染症が比較的少ないと思われます。

● 家畜衛生対策等の徹底

日本では獣医学分野が中心となって家畜衛生対策、狂犬病対策を徹底して行ってきました。その結果、家畜のブルセラ病、牛の結核のように、家畜から人に感染する病気で、ほとんど見られなくなったものや、狂犬病のように国内から一掃された動物由来感染症があります。

● 衛生観念の強い国民性

日本人は、日常的な衛生観念の強い国民であるといわれており、手洗いの励行やネズミ・ハエ等の駆除を行ってきたこと等も関係があるのかもしれませんが。